

漆資源の確保に向けた取組について ～漆実生苗木生産講習会を開催しました～

1 はじめに

国は平成30年度以降、国宝や重要文化財の建造物等を修繕する際に全ての工程で国産漆を使用する方針を決定しており、国内では今後年平均で約2.2tが必要との予測が公表されていることから、国産漆の増産が求められています。

二戸地区で生産される浄法寺漆は、国産漆の7割を占めており、国内最大の産地として、将来に向けた長期的な漆資源の維持・確保が重要となっています。

2 漆苗木の供給体制について

国産漆の需要増加に伴い、管内でも漆の植栽の気運が高まっています。しかし、従来漆掻き職人などが個人的に生産している漆苗木は、近年、生産量が減少しています。

そこで、浄法寺漆の確保に向け、漆資源の増大に必要な漆苗木を安定的に供給できる体制づくりが必要となっています。

3 漆苗木生産講習会の開催について

当普及区では、平成29年度に専門性の高い漆苗木生産技術の伝承のため、実生苗木生産マニュアルを作成しました。



平成30年度は、二戸市の地域おこし協力隊(漆林フォレスター)と地元の浄安森林組合が主体となり、漆苗木生産に取り組みます。

生産に当たり、去る4月18日に、漆種の発芽処理(脱ロウ作業)と、5月1日から2日には、蒔き付け作業の講習会を開催しました。



脱ロウ講習(4月18日開催)



蒔き付け講習(5月1日~2日開催)



蒔き付けしたおよそ27万粒の種について、今後は管理方法から掘り取りまで講習します。また、管理作業を行いながら、得苗までの歩留まり調査を行います。



苗畑(蒔き付け後)



苗畑(2年目植替え後)

4 今後の取組について

当普及区では、漆苗木生産に係る1年を通じた作業について、引き続き講習会を開催します。

また、漆資源の維持・確保に向け、漆林の適正な管理を促進するため、保育管理研修会を開催する予定です。